

小学校

教科【国語】

単元【ことば：まちがいをなおそう】

主体的・対話的で
深い学びのポイント

クラウドによるデータの共有を活用し、互いの考えを出し合いながら協働的に問題解決を行うことにより、正しい言葉の使い方の定着を図ることができ、学びが深まる。

ICT活用のポイント

クラウドによるデータの共有及びJamboardを活用することにより、考えを短時間で共有したり比較したりすることができ、言葉についての深い理解に繋がる。

使用する
ICT機器

大型提示装置、タブレット等

使用するアプリ・
クラウドサービス等

Kahoot!、Google Jamboard

クラウド
の活用☒教材の配布・回収等
☐生徒の学習状況の把握☐資料等の共有
☒その他（既習内容の振り返り）本時の
ねらい

「は」、「を」、「へ」を正しく使うことができる。

主な学習活動
(学習場面)

ICTの活用・留意点等

評価

導入

○既習の内容を
振り返る。

一斉



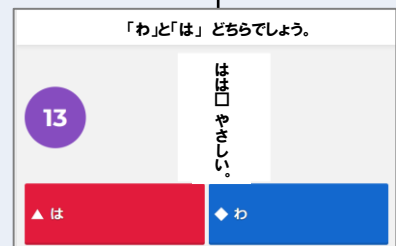
大型提示装置を使い、Kahoot!による既習内容を確認するクイズを出題する。

ICT機器

指針2



クラウド

○本時の課題を
確認する。

「は」、「を」、「へ」を正しく使うための学習について、見通しをもつ。

展開

○字の使い方
で、間違っ
ていると
ころを直す。

個別



配付されたJamboardの問題に取り組み、間違った使い方の字を探し、正しい字に書き換える。

ICT機器

クラウド



問題の答えを確認して、新しい問題を配付する。



グループでJamboardを共有し、話し合いながら問題を解いていく。

クラウド

指針3

ここで評価

協働

○解答を交流
する。

一斉



グループで取り組んだ成果を大型提示装置に映して交流する。

クラウド

【知】
「は」、「を」、「へ」を正しく使うことができる。

終末

○本時の振り返り

個別



Jamboardで振り返りを行い、提出する。

ICT機器

クラウド

※ 表内の指針1～6は、「ICT活用授業指針」8ページにあるICT活用授業の目指す姿1～6を表しています。

※ ICTの導入が目的化しないように、ICTを活用する場面と活用しない場面を効果的に組み合わせることが重要です。

※ 評価の観点 【知】＝知識・技能 【思】＝思考・判断・表現 【態】＝主体的に学習に取り組む態度